

地下水賦存量と人口動態との比較

Comparison with the groundwater storage and the population change

越谷 賢^{1*}, 丸井敦尚¹

Masaru Koshigai^{1*}, Marui Atsunao¹

¹産総研

¹GSJ, AIST

地下水は、量・質ともに優れた安定性を有し、我々の生活に不可欠な水資源として古くから利用されている。地下水質は層別に見て異なり、その利用方法は地質に依存することも多い。越谷ほか(2009)は、全国の主要な平野・盆地における地質ごとの境界面の深度分布図を作成し、地層(質)ごとの地下水賦存量を見積った。

本邦では、平野や盆地に人口・経済活動が集中している。そのため、地形と人口・経済活動との関連については、これまでに多くの報告がある。本報告では、地形に加え、地層ごとに見積った地下水賦存量と人口動態とを全国的に比較・検討した。また、近年では地球温暖化による表流水の水質悪化が指摘されており、新たな資源開発の観点から地下水賦存量を知ることが人口動態の予測に有用であると考えられた。

なお、地球温暖化に対する省エネルギーや環境保全の政策実現には、輸送ルートの短縮化や経済活動の分散化が必要である。そのため、地域の社会・経済活動の基盤ともいえる地下水資源の再評価は喫急の課題であり、本研究成果の資するところは大きい。

文献

越谷 賢・丸井敦尚・伊藤成輝・吉澤拓也(2009)日本列島の主な平野, 盆地における地下水賦存量の見積.日本地下水学会2009年秋季講演会講演要旨, p.118-119.

キーワード:地下水賦存量,地形,人口動態,地球温暖化

Keywords: Groundwater storage, Topography, Population change, Global warming